

様式-37

くい打込み記録表 (記載例)

くい番号 №		記録者										印																													
年	月	日	天候	気温	℃		土質					N	標高 (m)	貫入深さ (m)	撃回数とセンチの打メ	貫入当り量 (mm)	100cmごとの1打撃当り貫入量 (mm)	落下高の (cm)	ンリドバ量 (mm)																						
くい打機諸元		ディーゼルハイラムハンママー D-12										量		高		貫入深さ		撃回数とセンチの打メ		貫入当り量		落下高		ンリドバ量																	
長さ	15.0m	貫入深さ	※17.0m	径	600mm	質					10	20	30	40	100	95	90	85	83	48	35	11	34	27	19	15	13	16	13	15	13	12	10	9	9	110	110	110	0.8	0.7	0.6
管厚	9+12mm	作業時間	7'00"~10'20"	作業時間合計	3時間20分	シルト交り砂質土					N		高		貫入深さ		撃回数とセンチの打メ		貫入当り量		落下高		ンリドバ量																		
溶接時間	58'+47"=105'	総打撃数	2,740回	ラム落下高	110cm	れき交り粘土					量		高		貫入深さ		撃回数とセンチの打メ		貫入当り量		落下高		ンリドバ量																		
貫入量	0.8cm	リバウンド量	0.6cm	ラム落下高	110cm	れき交り砂質土					N		高		貫入深さ		撃回数とセンチの打メ		貫入当り量		落下高		ンリドバ量																		
支持力 (支持力の算定は次頁による)																																									
くい位置のずれ	X-X	mm	Y-Y	mm	くい角度のずれ	1/100																																			
記事																																									
* ヤットコ φ600mm L=4.00m を使用 +-----+ Kは継手位置																																									

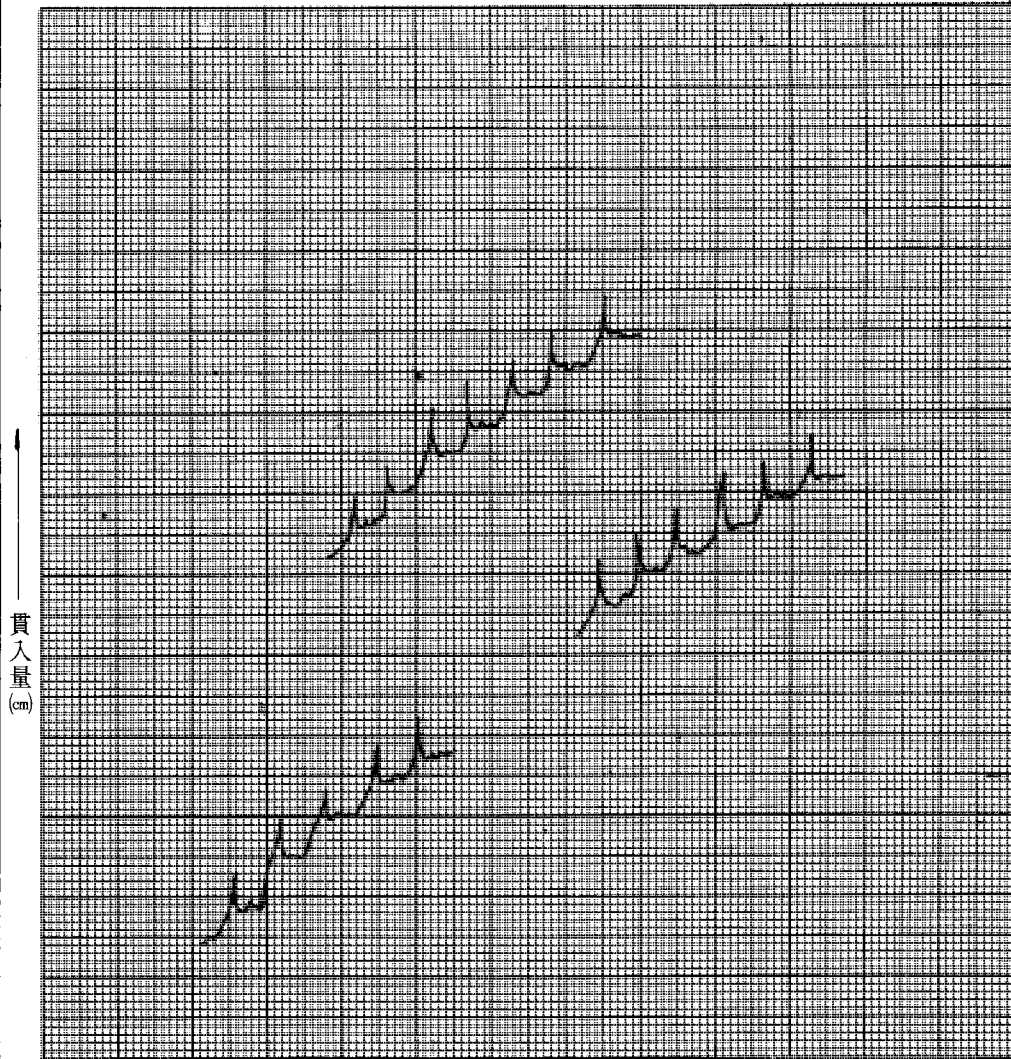
様式-38

くい貫入量測定記録図

くい番号	No		
貫入深度	G.L~	00	mm
ハンマ重量	W	1.25	ton
ハンマ落下高さ	H	110	cm
貫入量	S	0.4	cm
リバウンド	K	0.6	cm
長期許容支持力	Ra		ton

年月日 年 月 日

測定者 Ⓜ



貫入量 (cm)

打撃数 n

様式-39

場所打ちぐい施工記録表

測定者

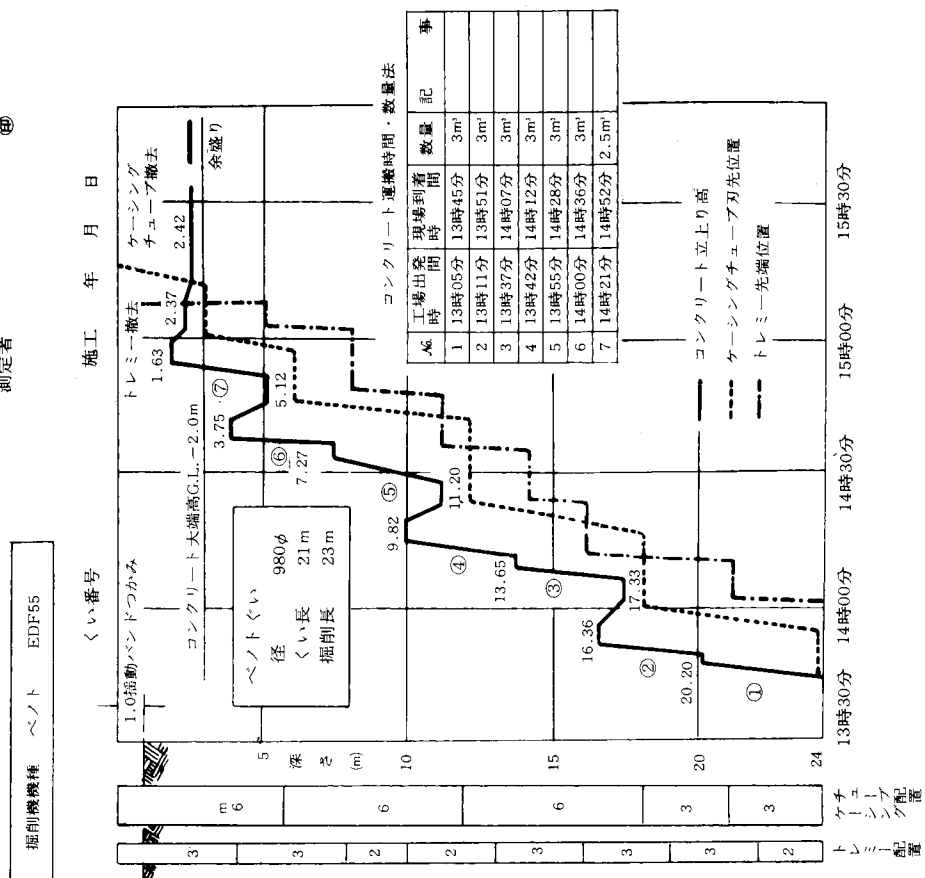


施 工 記 録						(年 月 日)
くい番号		堀削深度		施工機械名		施工時間 合 計
機 械 段	ケーシン	堀 削	鉄 筋	トレミー	コンクリ	
取 替	グ建込み		建 込 み	建 込 み	ー ト 打 設	
㊟ 時 分	時 分	時 分	時 分	時 分	時 分	時 分
㊞ 時 分	時 分	時 分	時 分	時 分	時 分	
㊟ 時 分	時 分	時 分	時 分	時 分	時 分	
堀 削 記 録						
堀削深度	時 刻	土 質 名	堀削深度	時 刻	土 質 名	
m	時 分		m	時 分		
出 来 形 ・ 品 質 記 録						
くい位置のずれ	X-X	mm	Y-Y	mm	くい角度のずれ	1/
くい頭コンクリート	とりこわし長	cm	圧縮強度	$\sigma =$		N/mm ²

様式-40

場所打ちぐい管理記録図(例)

平成元年7月1日	はれ 気温 21℃	基礎種別	P ₁ - ぐい番号 P ₁ -3	ぐい寸法 径100・30m	EDF55
機械すえ付高 A.P.+1.20m	支保層土質名 砂利混じり砂	掘削朝	掘削 鉄筋 鉄筋かこの実あかりが見られる 特記事項 掘削機 掘削機 処理 処理	くい番号	EDF55
鉄筋天端高 設計A.P.+1.12m ト天端高 A.P. ± 0 m	コンクリート設計 A.P. ± 0 m	掘削朝	掘削 鉄筋 鉄筋かこの実あかりが見られる 特記事項 掘削機 掘削機 処理 処理	くい番号	EDF55
施工A.P.+1.13m	施工 A.P.+1.00m	掘削朝	掘削 鉄筋 鉄筋かこの実あかりが見られる 特記事項 掘削機 掘削機 処理 処理	くい番号	EDF55
ボーリング 状況図	掘削朝	掘削朝	掘削朝	くい番号	EDF55
端高 A.P. ± 0	A.P. +1.50m			くい番号	EDF55
5				くい番号	EDF55
10				くい番号	EDF55
15				くい番号	EDF55
20				くい番号	EDF55
25				くい番号	EDF55
30				くい番号	EDF55
時	6.00	7.00	8.00	9.00	10.00
					11.00



測定者

施工年月日

13時30分 14時00分 14時30分 15時00分 15時30分

ケーシング配置
トレミー配置

様式-41

井筒 深礎 施工記録表

基礎番号		型式形状		形状寸法		測定者		⑩		
使用機械										
特記事項	コンクリート 圧縮強度	ロッド	強度	ロッド	強度					
月日	工種	作業内容	測定又は 作業時間	実測 地質	沈設又は 掘削深	累加沈設 (掘削)深	変位量	沈設 高	沈設 荷重	摘要

備考 1. 沈設又は掘削深さとあるのは、井筒の場合は沈設深、深礎の場合は掘削深さを記入する。
 2. 沈設荷重欄は井筒の場合に記入する。

井筒
深礎

施工管理図(例)

基礎番号	第○号橋脚	形式形状	円形	形状寸法		φ8.00 20.0m	測定者	特記事項							
				位置のずれ	中埋材										
施工値	橋軸	σ=+10	天端H 100,000	月日	X-X	+10	切込砂利 (無規格)	1. 5.0~7.0mでポンプ(φ160)3台使用(80m ² /H) 2. 18.5mで沈どが止まったので100t載荷する。							
		σ=±0	σ +25						Y-Y	-5					
	直角	σ=+5	σ -15	天端	X-X	-10									
		σ=+5	σ ±0						Y-Y	+5					
深度	ボーリング柱状図	実測柱状図	沈設記録			月日	中埋記録	月日							
+0	砂質土	砂質土	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	110	120
5	れき交り粘土	れき交り粘土	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	110	120	
10	玉石交り土	玉石交り土	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	110	120	
15	硬岩	硬岩	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	110	120	
20			10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	110	120	
25			10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	110	120	
30			10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	110	120	

様式-43

地点標設置成果表

地点標	距離	型式	道路中心の距離	地点標所在地	主要地名			地点		備考
					測点	地名	測点	測点		
										受注者 担当者 設置年月

地点標設置工事現地点検調書

路線名 検査年月日

設置延長 受注者

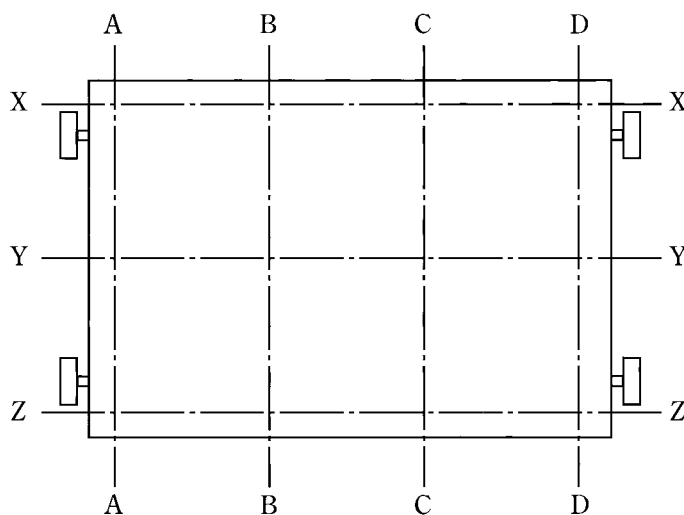
点検延長 点検者職氏名 ㊟

直 線 部				曲 線 部			
地点標	公称距離	実測距離	誤 差	地点標	L ₂	L ₁ L' ₁	誤 差
				備 考			
				<p>点検は地点標設置工事に従事した技術者以外の者が行うこと。</p>			

様式-45

水門出来形記録表

工 事 名	((例) ○○ 水 門 新設第○期工事						
測 定 時 期	(例) 現 場 塗 装 完 了 後 日						
測 定 箇 所	(例) ○○ ゲート 扉 体 前 面						
測 定 結 果	(標準膜厚) ○○ (最低膜厚) ○○						
測 定 年 月 日				測 定 者			
測 定 値							
測 定 位 置	1 (上)	2 (下)	3 (左)	4 (右)		平 均	最 低 値
(例)1 A-X							
2 A-Y							
3 A-Z							
4 B-X							
5 B-Y							
6 B-Z							
7 C-X							
8 C-Y							
9 C-Z							
10 D-X							
11 D-Y							
12 D-Z							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
標準膜厚	—	—	—	—	—	(平均)	—

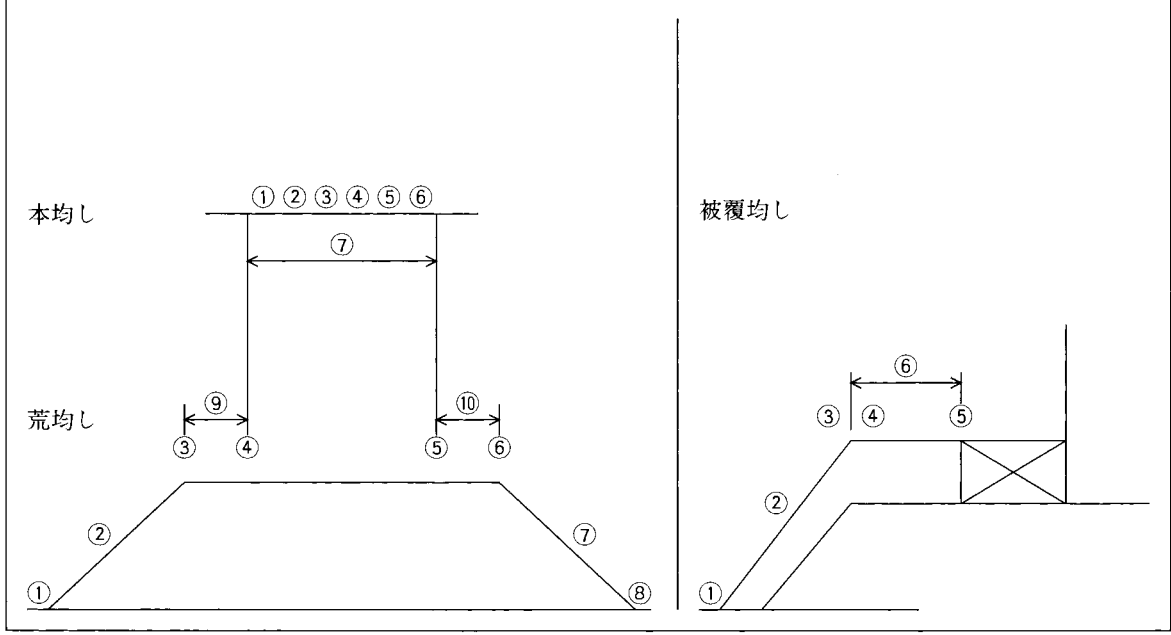


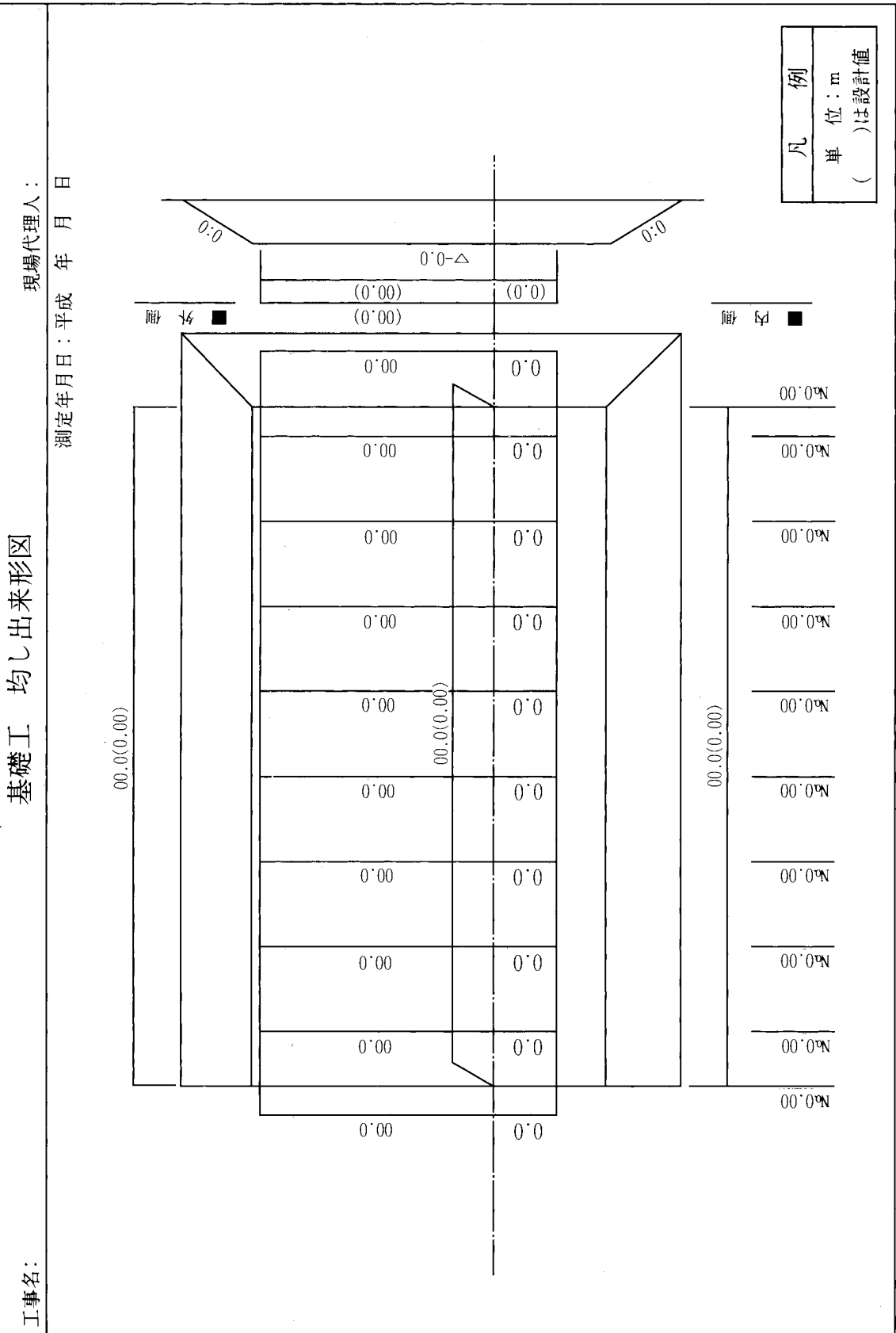
様式-46

工事名:	捨石均し出来形測定表	現場代理人:
		測定年月日:平成 年 月 日

測 線 No.	測 定 の 結 果						天端幅	延 長
	施 工 高							
	①	②	③	○	○	○		
(設計値)	○○	○○	○○	○○	○○	○○	○○	○○

略 図 (記 入 例)

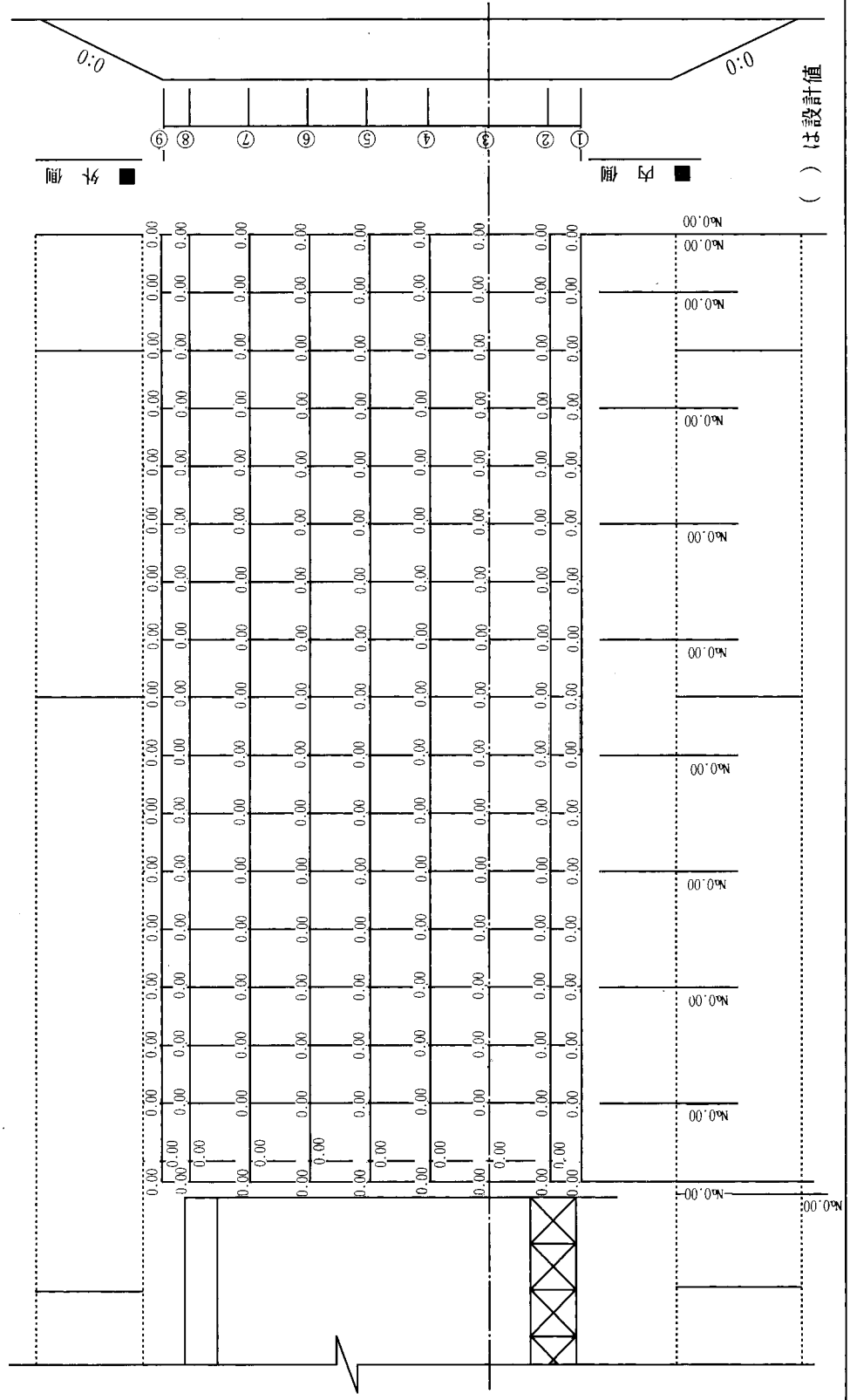




基礎工 均し出来形平面図

現場代理人：
測定年月日：平成 年 月 日

工事名



杭 出 来 形 管 理 表 様式-49

工事名 _____ 平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日 _____
 断面形状 _____ 杭打機名称 _____ 型式 _____ 全重量 _____ ラム重量 _____
 現場代理人 _____ ④

杭 番 号	長 (m)	打 年 月 日	杭 天 頭 高 (m)	杭 先 端 高 (m)	杭 の 傾 斜 (度)	杭 中 心 位 置 (cm)	頭 置	備 考

杭打込記録

杭番号 _____ No. _____ 杭打機 _____ ラム落下高 _____ m
 外径又は高さ・幅 _____ cm 称 _____ 打撃エネルギー _____ t・m
 長さ _____ m 式 _____ 打撃回数(毎分) _____ 回/分
 打込年月日 平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日 重量 _____ t 爆発による押圧力 _____
 記録者氏名 _____ ラム重量 _____ t クッション材 _____

貫入深さ (m)	50cm (10cm) ごと の打撃 回数(回)	累加打撃 回数(回)	50cm (10cm) ごと の平均貫入 量 (cm/blow)	リバウンド量 (cm/blow)	ラム落下高 (m)	摘 要

注1) 貫入深さは、工事用基準面からの深さとす。
 2) 現地盤高、自重による貫入量は、摘要欄に記載する。
 3) 打撃回数及びラム落下高は、全長につき50cmごとには、また打止まり付近は10cmごとに記録する。
 4) リバウンド量及びラム落下高は、打止まり付近についに記載する。
 5) 打込み後の杭の傾斜、打込み時の異常等は、摘要欄に記載する。
 6) 振動式杭打機または、油圧式杭打機を使用する場合は、監督員の承諾を得るものとする。

矢板出来形管理表

工事名	平成 年 月 日	杭打機名称	型式	全重量	現場代理人	ラム重量
断面形状						

矢板 番号	長さ (m)	打込 年月日	矢板 天端高 (m)	矢板 先端高 (m)	矢板 先端高 (m)	矢板法線 に対する 出入り (cm)	矢板法線 に対する 傾斜 (× 1/100)	矢板法線 方向の 傾斜 (× 1/100)	備考

矢板壁延長	計画	m
"	実測	m

ケーソン製作管理表

様式-52

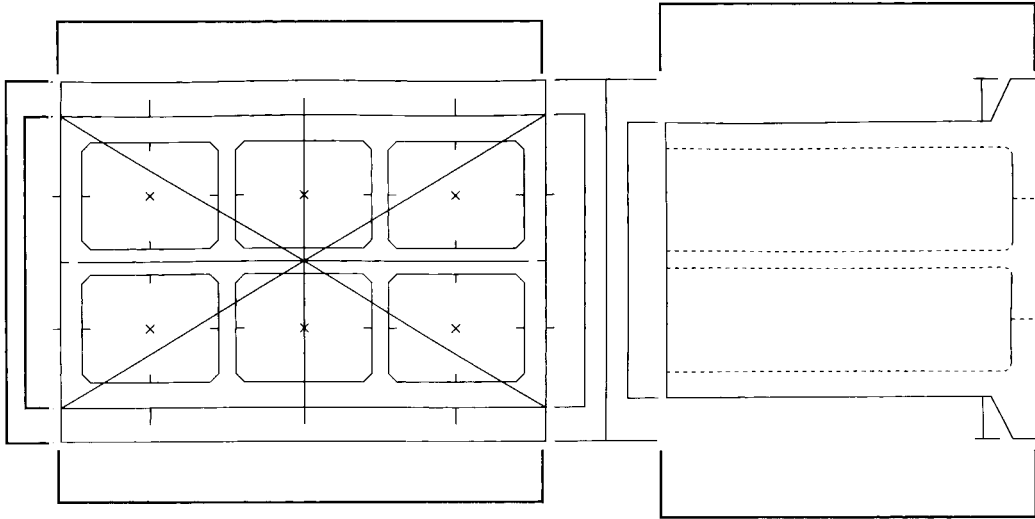
工事名 _____

平成 年 月 日

現場代理人 _____



ケーソン製作確定位置



ケーソン出来形管理表

ケーソンNo.

測定月日		月日	月日	月日	月日	月日	月日
測定位置	設計値	底版	各層	各層	各層	各層	天端層
高さ							
幅		両端、中央	中央	中央	中央	中央	4階
長さ		〃	〃	〃	〃	〃	両端、中央
壁厚		—	1ヶ所	1ヶ所	1ヶ所	1ヶ所	1ヶ所
底版厚さ		各室中央	—	—	—	—	—
フーチング高	(1)		—	—	—	—	—
	(2)		—	—	—	—	—
対角線			—	—	—	—	—

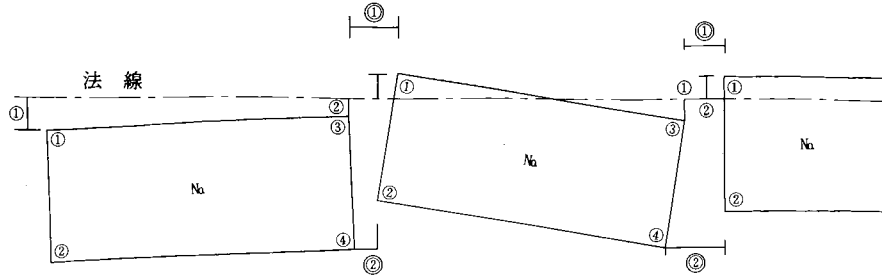
工事名

平成 年 月 日

現場代理人

印

ケーソン据付測定位置



ケーソン据付出来形管理表

ケーソン 番号	法線に対する出入			据付目地間隔			据付時天端高さ		
	測定 位置	測定月日	測定値	測定 位置	測定月日	測定値	測定 位置	測定月日	測定値
No.1	①						①		
	②						②		
							③		
							④		
No.2	①			①			①		
	②			②			②		
							③		
							④		
No.3	①			①			①		
	②			②			②		
							③		
							④		
No.4	①			①			①		
	②			②			②		
							③		
							④		
No.5	①			①			①		
	②			②			②		
							③		
							④		
No.6	①			①			①		
	②			②			②		
							③		
							④		

ブロック製作出来形管理表 (記人例)

工 事 名 ブロック名 現場代理人

製作番号	長 さ		幅		高 さ		そ の 他								備 考
	B1	B3	A1	A3	C1	C3	C5	C7	D1	D3	E1	E3	F1	F3	
	B2	B4	A2	A4	C2	C4	C6	C8	D2	D4	E2	E4	F2	F4	
規定寸法	250	250	150	150	150	150	10	10	30	30	10	10	110	110	
No.1	251	251	150	151	150	150	9	10	30	30	10	10	110	111	
	251	250	151	151	150	151	10	10	30	30	10	10	111	110	
No.2															

中詰・蓋コンクリート出来形管理表

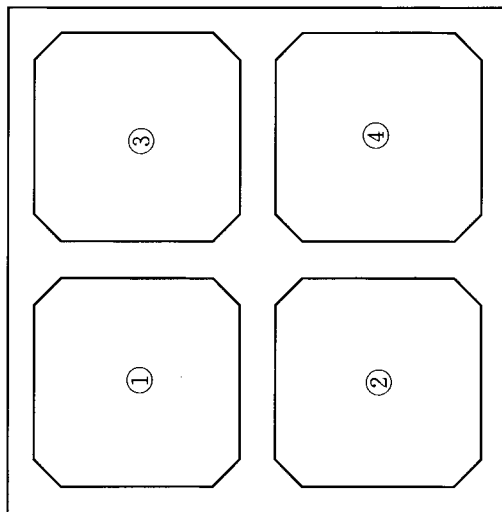
工事名 _____

平成 年 月 日

ケーソンNo. _____

現場代理人 _____

印



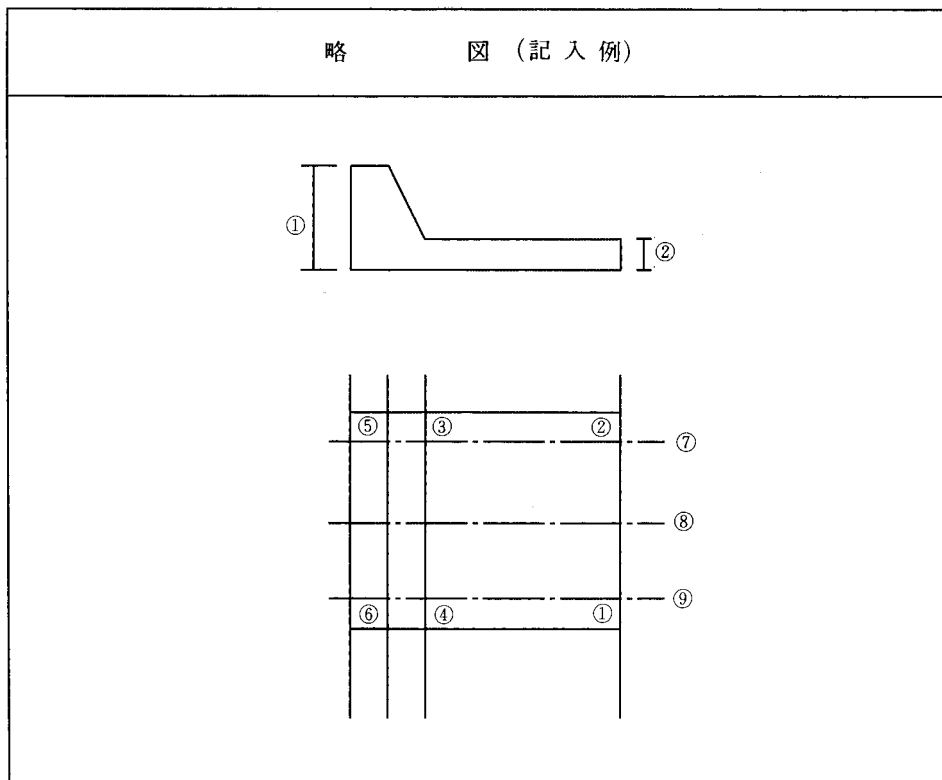
項目 番号	ケーソン天端よりの値		(B)-(A)	備考
	実測値 (A)	設計値 (B)		
①				評容範囲±0cm
②				
③				
④				

上部コンクリート出来形測定表

工事名 _____

平成 ____ 年 ____ 月 ____ 日

スパン No.	測定月日	測定結果			
		天端高 又は厚さ	天端幅	延長	出入



洗掘防止マット出来形測定表

工事名

平成 年 月 日

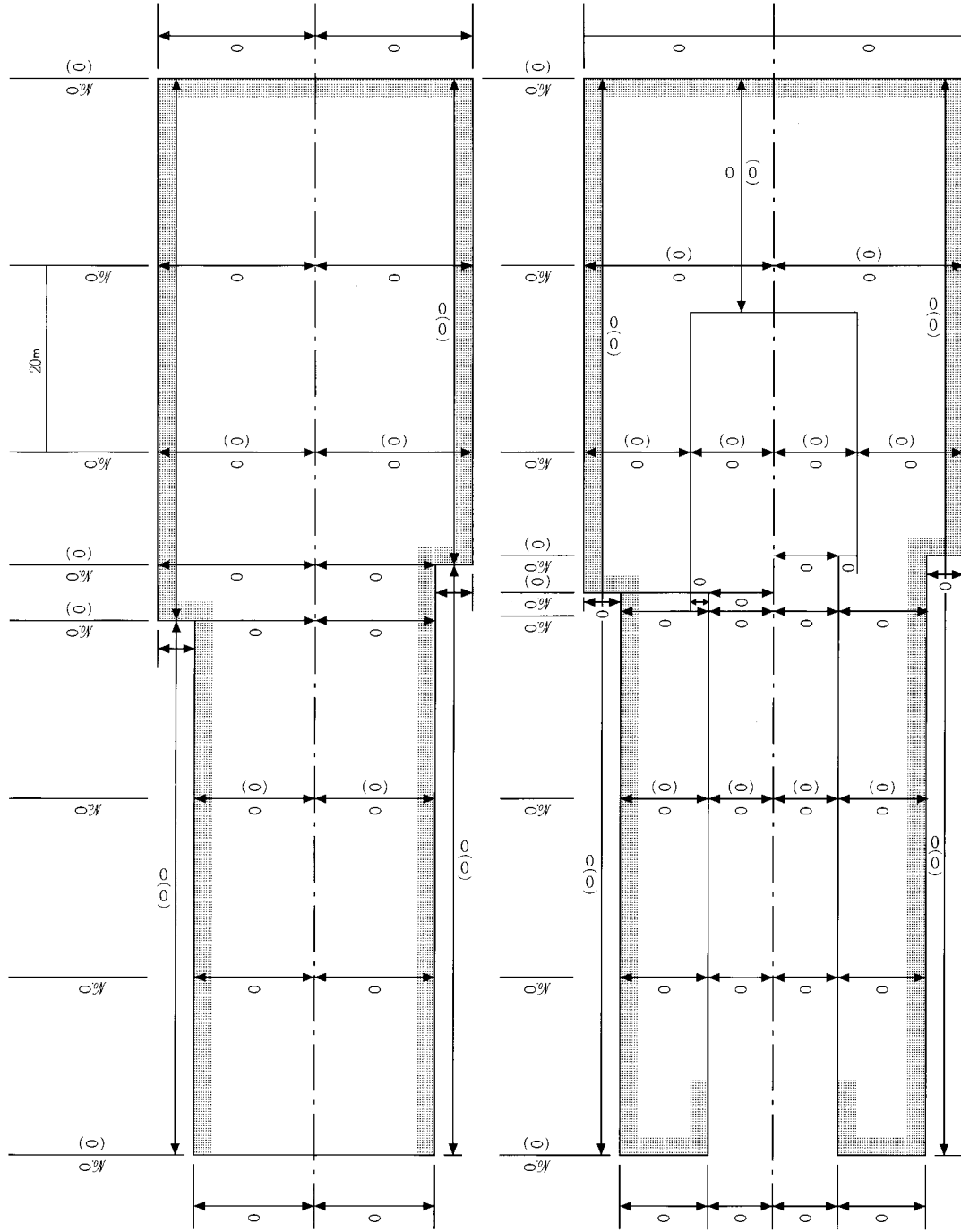
現場代理人



マ ッ ト №	敷 設 日 月 日	測		結 果	備 考
		敷 設 入 置	重 ね 幅		

注) 敷設置マット№設計測線と関連づけて記入、重ね幅の記入は監督員の指示による。
 延長は、測定区間、全長を関連づけて記入。

出來形平面圖

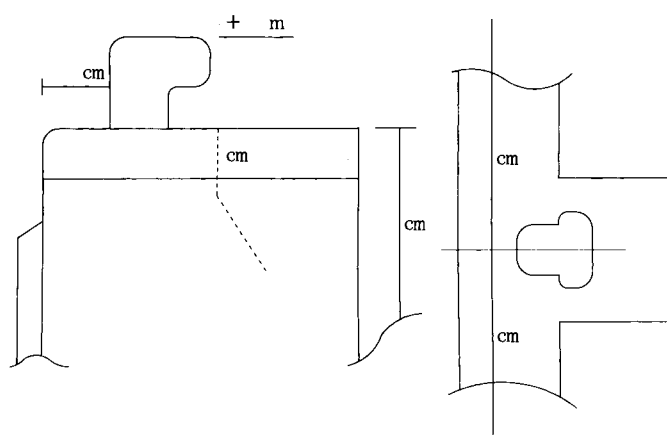


凡例
 測線番号
 0 } 測定値
 (0) } 設計値

係船柱出来形管理表

工 事 名	
年 月 日	平成 年 月 日
現場代理人	印

係船柱測定位置図



係船柱出来形管理表

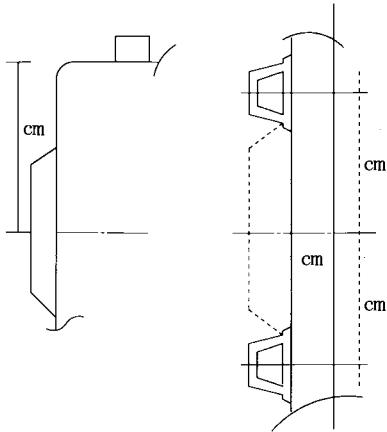
番 号	法線に対する出入	天 端 高	中心間隔	基礎コンクリート(直柱)		
				幅	長さ	高さ
基 点 0 より	—	—		—	—	—
№ 1						
№ 2						
№ 3						

様式-60

防舷材出来形管理表

工事名	
年月日	平成 年 月 日
現場代理人	(印)

防舷材測定位置図



防舷材出来形管理表

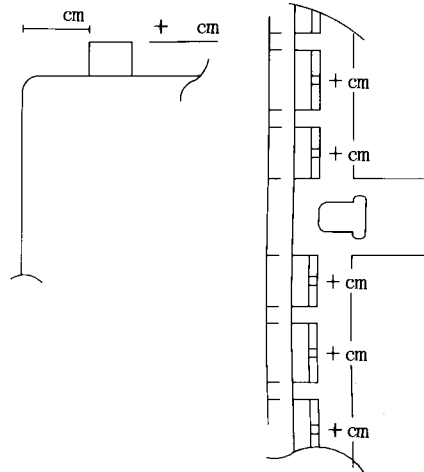
番号	取付高さ	中心間隔
基点 0より	—	
No. 1		
No. 2		
No. 3		
No. 4		

様式-61

車止め出来形管理表

工事名	
年月日	平成 年 月 日
現場代理人	(印)

車止め測定位置図

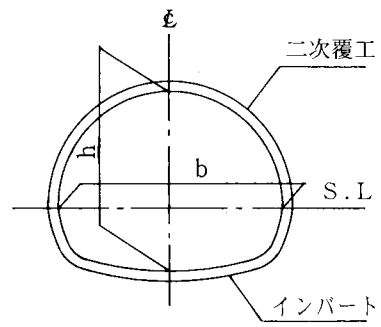
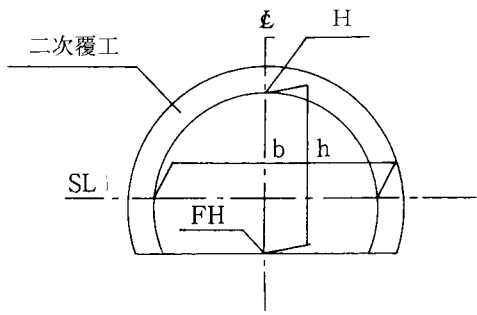


車止め出来形管理表

番号	法線に対する出入	天端高	取付間隔
基点 0より			
No. 1			
No. 2			
No. 3			
No. 4			

トンネル内空断面出来形測定結果表

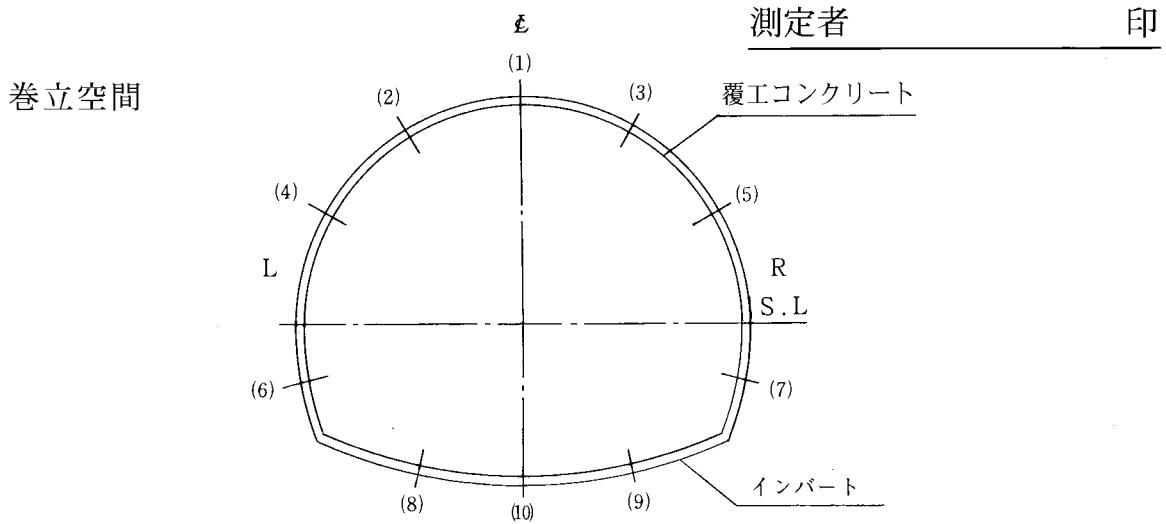
測定者 _____ 印 _____



測 点	基準高 H (m)			高さ h (m)			全 幅 b (m)			備 考
	設計幅A	施工幅B	差B-A	設計幅A	施工幅B	差B-A	設計幅A	施工幅B	差B-A	
規格値範囲	±50mm			-50mm			-50mm			

記 事：
 ※ 施工延長40m以内につき1箇所。

二次覆工打設前巻立空間測定結果表



測定区間		SP= _____ ~SP= _____											
地山分類		設計覆工厚A				アーチ: _____ cm		インバート: _____ cm		規定値範囲		設計覆工厚以上	
中 測 間	測点	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	平均値	インバート			
										(8)	(9)	(10)	平均値
	測定厚B(cm)												
	設計厚との差 B-A(cm)												
終 測 点	測点	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	平均値	インバート			
										(8)	(9)	(10)	平均値
	測定厚B(cm)												
	設計厚との差 B-A(cm)												

記事:

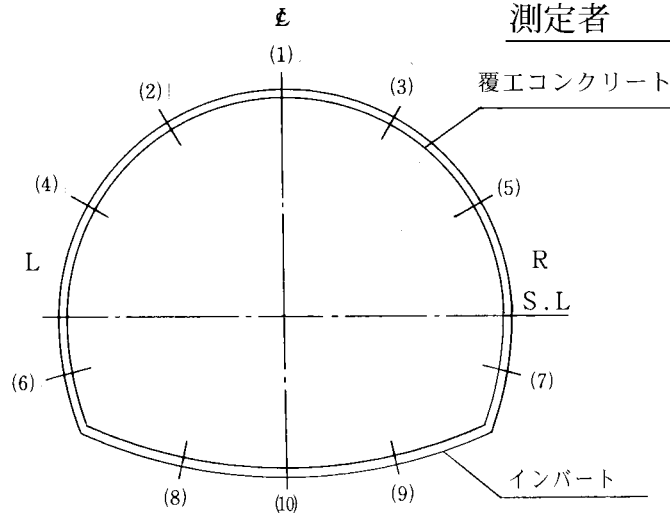
- ※ 1 打設長の間と終点を図に示す各点で測定。
- ※ 以下の場合には設計厚適用除外とする。
 - 1) 良好な地山における岩または吹付コンクリートの部分的な突出で設計覆工厚の1/3以下のもの。
ただし、変形が収束しているものに限る。
 - 2) 異常土圧による覆工厚不足で、型枠の据付時には安定が確認され、かつ別途構造的に覆工の安全が確認されている場合。
 - 3) 鋼アーチ支保工、ロックボルトの突出。

二次覆工出来形測定結果表

二次覆工端部

測定者

印



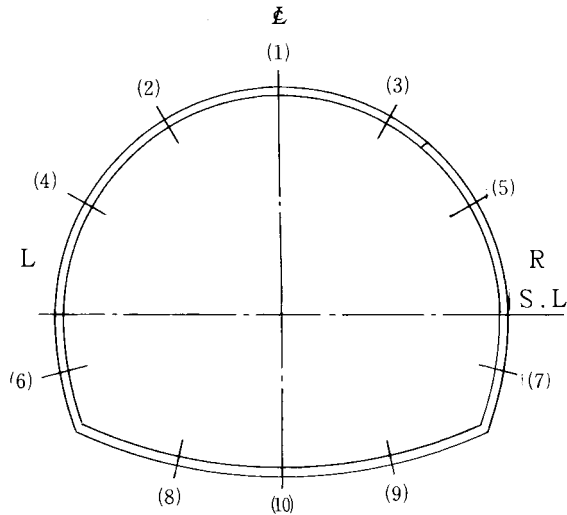
測定区間	SP =		~SP =											
地山分類					設計覆工厚A	アーチ:	cm	インバート:	cm	規定値範囲	設計覆工厚以上			
覆工端部	測点	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	平均値	インバート				
										(8)	(9)	(10)	平均値	
	測定厚B (cm)													
	設計厚との差 B-A (cm)													

記 事： ※ 1 打設長の端面において図に示す測点。
 ※ 以下の場合には設計厚適用除外とする。
 1) 良好な地山における岩または吹付コンクリートの部分的な突出で設計覆工厚の1/3以下のもの。
 ただし、変形が収束しているものに限る。
 2) 異常土圧による覆工圧不足で、型枠の据付時には安定が確認され、かつ別途構造的に覆工の安全が確認されている場合。
 3) 鋼アーチ支保工、ロックボルトの突出。

吹付コンクリート出来形測定結果表

測定者 _____

印 _____



測定区間	SP = _____					
地山分類	設計吹付厚A		cm	規定値範囲	設計吹付厚以上	
測点	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	平均値
測定厚B (cm)						
設計厚との差 B - A (cm)						
測点	(6)	(7)	平均値	(8)	(9)	(10) 平均値
測定厚B (cm)						
設計厚との差 B - A (cm)						

記事:

- ※ 施工延長10m毎また、断面変化点毎に1断面。
- ※ 良好な岩盤で施工端部、突出部等の特殊な箇所は設計吹付厚の1/3以上を規定値とする。

様式-66

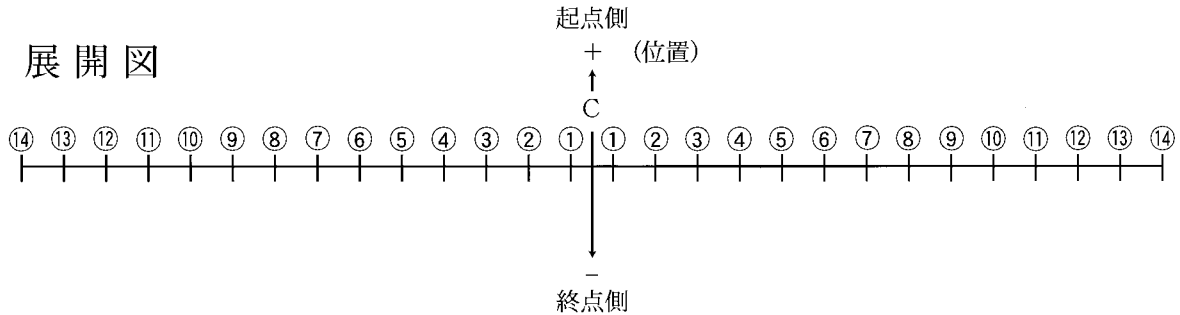
ロックボルト出来形測定結果表 (1)

測定断面 SP =

測定者

印

展開図



ロックボルト位置(延長方向)		設計値	ロックボルト深さ				設計深さ		
L 側	設計位置から の変移(cm)	R 側	設計位置から の変移(cm)	L 側	測定値 (m)	設計値との差 (cm)	R 側	測定値 (m)	設計値との差 (cm)
①		①		①			①		
②		②		②			②		
③		③		③			③		
④		④		④			④		
⑤		⑤		⑤			⑤		
⑥		⑥		⑥			⑥		
⑦		⑦		⑦			⑦		
⑧		⑧		⑧			⑧		
⑨		⑨		⑨			⑨		
⑩		⑩		⑩			⑩		
⑪		⑪		⑪			⑪		
⑫		⑫		⑫			⑫		
⑬		⑬		⑬			⑬		
⑭		⑭		⑭			⑭		
平均		平均		平均			平均		

記事:

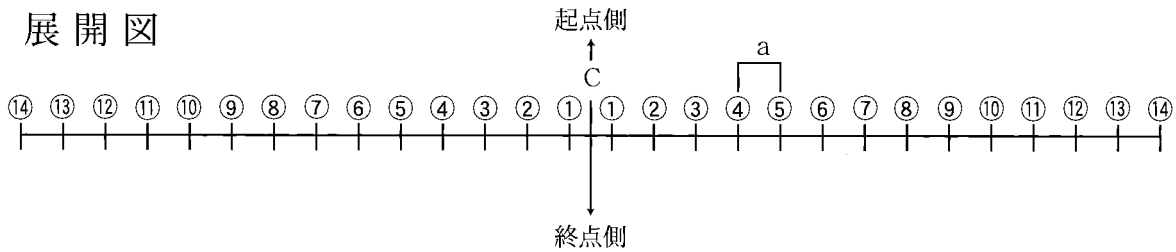
※ 施工延長40m以内につき1箇所。

様式-67

ロックボルト出来形測定結果表 (2)

測定断面 SP = _____ 測定者 _____ 印 _____

展開図



ロックボルト間隔 (周方向)

測 計 値 (cm)	測定箇所L側	測 定 値 (cm)	設計値との差 (cm)		測 定 値 (cm)	設計値との差 (cm)	備 考
	CL~①				CL~①		
	CL~②				CL~②		
	CL~③				CL~③		
	CL~④				CL~④		
	CL~⑤				CL~⑤		
	CL~⑥				CL~⑥		
	CL~⑦				CL~⑦		
	CL~⑧				CL~⑧		
	CL~⑨				CL~⑨		
	CL~⑩				CL~⑩		
	CL~⑪				CL~⑪		
	CL~⑫				CL~⑫		
	CL~⑬				CL~⑬		
	CL~⑭				CL~⑭		
	CL~				CL~		
	平 均				平 均		

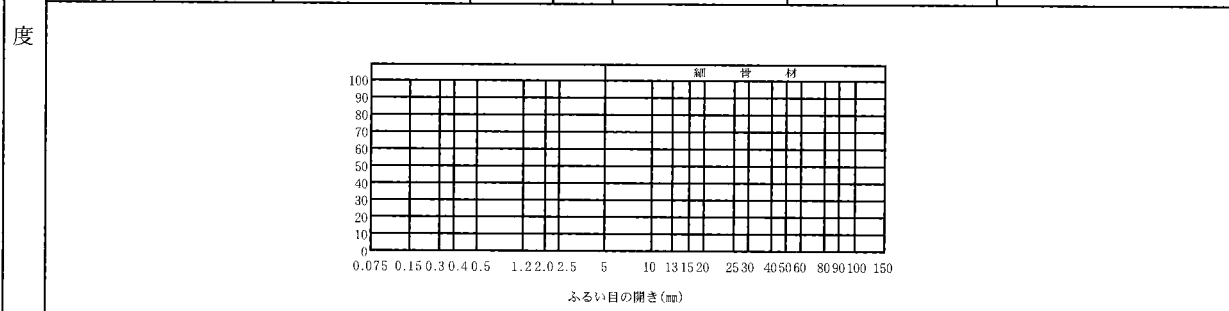
記 事： ※ 施工延長40m以内に1箇所。
 ※ 設計値については、以下のとおりとする。

① $L = a/2$ ②~ $L = na + a/2$

細骨材の種類

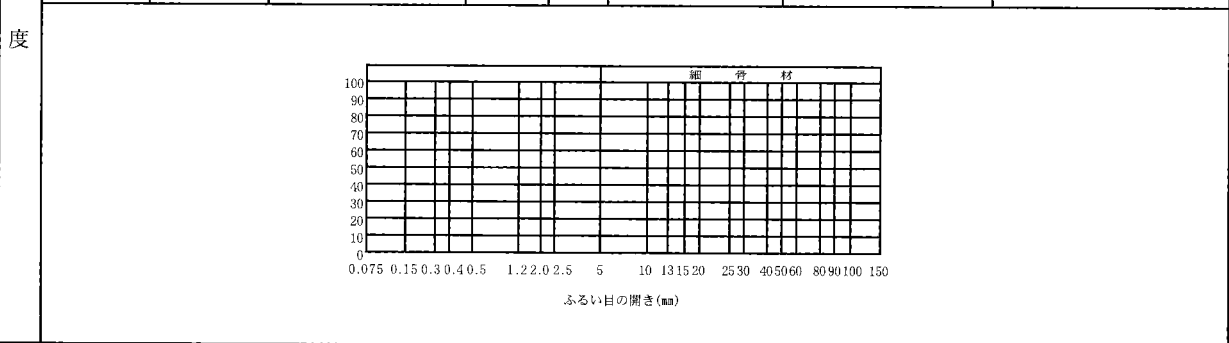
採取責任者	印	採取地	採取年月日	年	月	日
測定者	印	試験場所				

項目試験	試験方法		単位	規定値	試験値	備考
	JIS等番号	JIS等名称				
粒	ふるいの呼び寸法 mm	10	%	ふるいを通るものの重量百分率	100	
		5			90~100	
		2.5			80~100	
		1.2			50~90	
		0.6			25~65	
		0.3			10~35	
		0.15			2~10	
	粗粒率	—			—	



採取責任者	印	採取地	採取年月日	年	月	日
測定者	印	試験箇所				

項目試験	試験方法		単位	規定値	試験値	備考
	JIS等番号	JIS等名称				
粒	ふるいの呼び寸法 mm	10	%	ふるいを通るものの重量百分率	100	
		5			90~100	
		2.5			80~100	
		1.2			50~90	
		0.6			25~65	
		0.3			10~35	
		0.15			2~10	
	粗粒率	—			—	



様式-69 (トンネル工)

吹付コンクリートの初期強度試験成績報告書

打 設 位 置				材令	1日	測 定 者	印				
養 成 環 境	時 期	気 温 °C		湿 度 %		使 用 材 料	セメント				
	供試体作成時						細骨材	(比重:)			
	引抜き試験時						粗骨材	(比重:)			
配 合	粗骨材の 最大寸法 (mm)	スランブ の範囲 (cm)	空気量の 範囲 (%)	水・セメン ト比 (%)	細骨材率 (%)	単 位 量 (kg/m ³)					
						水	W	セメントC	細骨材S	粗骨材G	急 結 剤
示方配合											
現場配合											
記 事:											
供試体番号		1		2		3		備 考			
上部直径 D (mm)	1	平 均		平 均		平 均					
	2										
下部直径 W (mm)	1										
	2										
コーン高さ H (mm)	1										
	2										
コーンのせん断 面積A (mm ²)											
供試体破壊形状											
油圧シリンダー 受圧面積a (mm ²)											
引抜きせん断力 PL (N/mm ²)											
最大引抜き力 P=PL×a (N)											
圧縮強度の換算 係数 a		4.0		4.0		4.0					
圧 縮 強 度 σ (N/mm ²)											
平均圧縮強度 σ (N/mm ²)											
備 考:											
		※ σ ₁ =5N/mm ²									
		※ 1回/40m									

様式-70 (トンネル工)

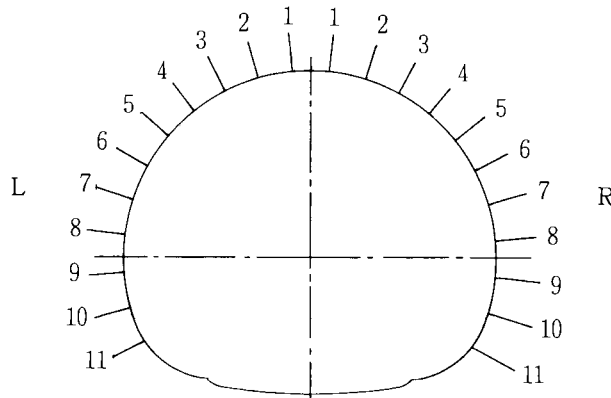
ロックボルト・ルーフボルトモルタルフロー値試験結果取りまとめ表

ロックボルト	ルーフボルト	規定値A : 180 (+20mm)	測定者	印
測点	パターン	フロー値B (mm)	規定値との差 (B-A)	備考
SP				
SP				
SP				
SP				
SP				
SP				
SP				
SP				
SP				
SP				
SP				
SP				
SP				
SP				
SP				
SP				
SP				

様式-71 (トンネル工)

ロックボルト定着確認試験成績報告書

試験位置	SP=	測定者	印
------	-----	-----	---



填充剤		パターン	
ロックボルト		岩質	
試験方法	A. トルクレンチ法 B. センターホールジャッキ法		

試験箇所	試験方法	引張力	試験結果	備考
L・R No.	A・B	100KN	合・否	
L・R No.	A・B	100KN	合・否	
L・R No.	A・B	100KN	合・否	
L・R No.	A・B	100KN	合・否	
L・R No.	A・B	100KN	合・否	
L・R No.	A・B	100KN	合・否	
L・R No.	A・B	100KN	合・否	

記事:

- ※ 試験方法はトルクレンチ法・センターホールジャッキ法のA・Bいずれかに○をつける。
- ※ 図に照らし合わせて周方向の試験箇所を記入する。
- ※ 試験結果の合否に○をつける。
- ※ トルクレンチ法：5本/40m、センタージャッキ法：2本/80m

試験盛土による盛土締固め総括表 (様式例)

様式一自1

測定	土質 種別	転圧 回数	前進第二速		総重量		履帯中心距離	
			cm	km/H	km/H	kg/cm ²	kg/cm ²	mm
			後進第一速		接地圧		履帯巾×接地長	
			km/H	km/H	kg/cm ²	kg/cm ²	mm	
	試験盛土の試験値	締固度	飽和度	空気間隙率	締固度	飽和度	空気間隙率	
			%	%	%	%	%	%
	試験盛土の試験値	締固度	飽和度	空気間隙率	締固度	飽和度	空気間隙率	
			%	%	%	%	%	%
	試験盛土の試験値	締固度	飽和度	空気間隙率	締固度	飽和度	空気間隙率	
			%	%	%	%	%	%
	試験盛土の試験値	締固度	飽和度	空気間隙率	締固度	飽和度	空気間隙率	
			%	%	%	%	%	%
	試験盛土の試験値	締固度	飽和度	空気間隙率	締固度	飽和度	空気間隙率	
			%	%	%	%	%	%
試験盛土の試験値	締固度	飽和度	空気間隙率	締固度	飽和度	空気間隙率		
		%	%	%	%	%	%	
試験盛土の試験値	締固度	飽和度	空気間隙率	締固度	飽和度	空気間隙率		
		%	%	%	%	%	%	
試験盛土の試験値	締固度	飽和度	空気間隙率	締固度	飽和度	空気間隙率		
		%	%	%	%	%	%	

(注) 1. 築堤試験盛土等の様式例である。
 2. 上表を参考にして各試験方法に応じ適切な総括表を作成すること。

コンクリート強度試験表 (シュミットテストハンマーによる)

		監督員

工 事 名

試験月日

材 令

受注者

印

測定者

印

No.	名 称	反 撓 度																			20 回 の 計	平均値	換算強度 kg/cm ²		
		1 回	2 回	3 回	4 回	5 回	6 回	7 回	8 回	9 回	10 回	11 回	12 回	13 回	14 回	15 回	16 回	17 回	18 回	19 回				20 回	

ひび割れ調査票 (1)

工 事 名	
受 注 者 名	
構 造 物 名	(工種・種別・細別等構造物が判断できる名称)
現 場 代 理 人 名	
主 任 技 術 者 名	
管 理 技 術 者 名	
測 定 者 名	

位 置	測定NO		
構 造 物 形 式			
構 造 物 寸 法			
竣 工 年 月 日	平成	年	月 日
適 用 仕 様 書			
コ ン ク リ ー ト の 種 類			
コ ン ク リ ー ト の 設 計 基 準 強 度	N/mm ²	コ ン ク リ ー ト の 呼 び 強 度	N/mm ²
海 岸 からの 距 離	海上、海岸沿い、海岸から km		
周 辺 環 境	工場、住宅・商業地、農地、山地、その他()		
周 辺 環 境	普通地、雪寒地、その他()		
直 下 周 辺 環 境	河川・海、道路、その他()		

構造物位置図 (1 / 5 0 , 0 0 0 を標準とする)

添付しない場合は
(別添資料 - 参照) と記入し、資料提出

ひび割れ調査票 (2)

構造物一般図

添付しない場合は
(別添資料 - 参照)と記入し、
資料提出

ひび割れ調査票 (3)

ひび割れ	有, 無	本数: 1 ~ 2本, 3 ~ 5本, 多数 ひび割れ総延長 約 m 最大ひび割れ幅 (で囲む) 0.2mm以下, 0.3mm以下, 0.4mm以下, 0.5mm以下, 0.6mm以下, 0.8mm以下, _____ mm
		発生時期 (で囲む) 数時間 ~ 1日, 数日, 数10日以上, 不明
		規則性: 有, 無
		形態: 網状, 表層, 貫通, 表層or貫通
		方向: 主鉄筋方向, 直角方向, 両方向, 鉄筋とは無関係
		(Empty space for additional notes)

ひび割れ調査票 (4)

ひび割れ発生状況のスケッチ図

添付しない場合は
(別添資料 - 参照) と記入し、
資料提出

ひび割れ調査票 (5)

構造物名 (工種・種別・細別等構造物が判断できる名称)

ひび割れ発生箇所の写真

添付しない場合は
(別添資料-〇参照) と記入し、
資料提出

